

まえがき

名古屋大学年代測定総合研究センターは、タンデトロン年代研究分野および新年代測定法開発研究分野の二分野を構成してユニークな研究活動を進めております。

タンデトロン年代研究分野では、タンデトロン加速器質量分析計を用いて環境中に存在する ^{14}C の濃度を測定することにより、考古学・地球科学をはじめとして人文科学から自然科学にわたる多くの分野での ^{14}C 年代測定および ^{14}C トレーサー研究に取り組んでいます。新年代測定法開発研究分野では、CHIME法などを駆使して地球誕生までの過去46億年の地球史を研究するとともに、K-Ar法や ^{10}Be を利用した新しい年代測定法の開発を行って、 ^{14}C では年代決定のできなかった約6万年前から数百万年前までのイベントを解析する研究を進めています。

平成14年度は、通常の研究活動に加えて、第9回加速器質量分析国際会議(AMS9)を9月9日～13日の5日間にわたり名古屋大学で開催しました。この会議では、23カ国から149名の参加を得て、活発な研究発表がありました。

自己点検・評価の一環として、毎年一回年度末に実施しているタンデトロン加速器質量分析計シンポジウムも15回目となり、1月30日と31日にシンポジオンホールで開催しました。この学際シンポジウムでは、研究者や学生その他、一般からの参加者も含めた89名の出席者を前に、4件の特別講演と12件の一般講演、2件のポスター発表が行われました。その講演内容を含めた論文集を、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XIV)として刊行するはこびとなり、ご協力いただいた関係各位に厚く感謝いたします。

法人化をひかえて、年代測定総合研究センターは、新たな年代測定法を開発しつつ、国内外から高く評価される研究成果をあげる必要があります。関係各位の一層のご支援・ご協力をお願いする次第です。

名古屋大学年代測定総合研究センター長
鈴木和博